令和５年度理学療法学科　卒業研究演題

理学療法学科４年生は１０月１２日に６グループの卒業研究発表が行われました。研究興味が近い学生同士集まってグループを作ったものの、なかなかテーマが決まらず、果たして終わるのだろうかと担当教員は心配な日々が続きましたが、なんとか発表日をむかえました。研究を続けていくなか学生同士で意見をぶつけ合うことで協調性やグループの大切さに気付くことがたくさんあったと思います。

また、今回の卒業研究は限られた環境や時間の中で進めていかなければならず、困難はたくさんあったと思います。仮説と異なる結果となった班や研究方法に課題を残してしまった班など様々あったため、研究結果や失敗から学んだことを今後の臨床現場で活かせるよう日々奮闘してください。４年生の皆さん、お疲れさまでした。論文作成は１２月が締め切りとなっています。（菊川教員）

１．外側補高による足関節内反捻挫の予防効果について
　橘　弥麻斗、藤本　現大、武藤　優剛、吉田　龍輝　（担当教員　菊川　拓郎）

２．梨状筋へのストレッチングが股関節屈曲可動域に与える影響
　中島　雄吾、平間　未咲　（担当教員　小橋　泰文）

３．ストレッチポールを用いたシルベスター法が肺活量に与える影響
　佐々木　望凪　（担当教員　北村　勝）

４．地域高齢者におけるＳＰＰＢとＭＦＥＳの関連性について
　板垣　優明、竹本　優作、畠山　瑞菜　（担当教員　冨永　恵理）

５．アロマテラピーによる運動負荷後の血圧回復速度について
　東　秀明、小畑　泰輝、万名　唯斗、三谷　菜穂　（担当教員　菊川　拓郎）

６．マスク着用の有無による６分間歩行時の生理学的変化について
　折田　ひかる、金内　勇起、滝川　瑠輝也　（担当教員　近藤　伸英）

令和５年度作業療法学科　卒業研究演題

３学科の中で最も早く卒業研究が完成する作業療法学科では、卒業研究論文集は印刷中の段階となっています。今年度は３グループに分かれ、先行研究などから個々興味のあること・作業療法の臨床に利用できることは何かを考えながらのテーマ決定と研究となりました。短期間でのデータ採取となり、時間に追われながらの作業とはなりましたが、さる４月１７日に発表会は行われ、８月上旬には最終論文の原稿が学生から提出されています。校正なども終了しました。各研究の研究演題や発表者名は以下の通りです。

1. “におい”を使用した作業療法についてのスコーピングレビュー
   阿部　優梨、小路　藍菜、長浜　紗柚　（担当教員　西舘　潤）

2. 床座位・椅子座位についての実態調査
   伊藤　紗衣、高原　ちはる、竹原　桜子、津村　優依奈　（担当教員　西口嘉和）

3. 医療系学校に通う若年者が抱える不安と生活の影響についての調査
   稲田　勇起、梅田　大智、夛田　嵩琉、丸山　晃汰　（担当教員　石井綾子）

令和５年度看護学科卒業研究についての考え方

研究を辞書で調べると“よく調べ考えて真理をきわめること”と説明されています。研究と勉強の違いは、“勉強は既に誰かが明らかにしたことを学ぶこと”であり、“研究は誰も知らないことを明らかにすること”であると研究に関する文献に記述があります。

看護学科の”看護研究”は、授業の一環としての位置づけであり、いわゆる卒業研究とは違います。研究を進めていく上で欠かせない論理的な思考力と批判的な思考力といった研究の基本をテーマ設定して学んでいきます。

学生の関心の大きなものを毎年研究テーマに設定しますが、少子高齢化、認知症、生活習慣病など近年の世相を反映したテーマが多くなります。（坂井教員）